

報道関係各位

第56回国際化学オリンピック サウジアラビア大会（リヤド） 日本代表生徒の成績について（金メダル2個、銀メダル2個）

拝啓 盛夏の候、報道関係の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、世界90か国・地域・他の高校生327名が化学の実力を競い合う“化学の祭典”『第56回国際化学オリンピック サウジアラビア大会（リヤド）』（7/21～7/30）に参加した日本代表生徒4名の成績が文部科学省より発表されましたので、添付にてご報告申し上げます。

ご多用中とは存じますが、ご高覧いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

敬具

2024年7月30日

「夢・化学-21」委員会

公益社団法人日本化学会



サウジアラビア大会（リヤド）

左から大沼さん（金）、鈴木さん（銀）、飯野さん（銀）、斎藤さん（金）、日本チームガイド

（写真提供：日本化学会）



令和6年7月30日

国際化学オリンピックに参加した生徒が金メダル等を獲得しました
また、国際的な科学技術コンテストで特に優秀な成績をおさめた生徒に対する
文部科学大臣表彰の受賞者を決定しました

文部科学省では、国立研究開発法人科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しています。このたび「第56回国際化学オリンピック（開催国：サウジアラビア）」に参加した生徒が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

また、文部科学省では、国際的な科学技術コンテストにおいて、特に優秀な成績をおさめた者等に対して文部科学大臣表彰等を行っており、このたびの成績を踏まえ、受賞者を決定しましたので、併せてお知らせします。

（共同発表：「夢・化学-21」委員会、公益社団法人日本化学会）

1. 受賞状況：金メダル2名、銀メダル2名
（上記4名全員が文部科学大臣表彰を受賞する）

※金メダルは参加者の上位約1割、銀メダルは次の約2割、銅メダルはその次の約3割の割合で与えられる。

2. 参加者および受賞者詳細：

おおぬま 大沼	たくみ 拓実	さん	栄光学園高等学校（神奈川県）	3年	金メダル
さいとう 斎藤	けんた 健太	さん	灘高等学校（兵庫県）	2年	金メダル
いの 飯野	たくと 拓人	さん	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）	3年	銀メダル
すずき 鈴木	あまね 亜麻音	さん	洗足学園高等学校（神奈川県）	3年	銀メダル

3. 参加国数/人数：90か国・地域・他/327名

4. 場所/期間：サウジアラビア（リヤド）/
令和6年7月21日（日）～7月30日（火）（日本時間）

5. 派遣機関：「夢・化学-21」委員会、公益社団法人日本化学会

（お問合せ先）

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 富田、森澤

電話：03-6734-4191（直通）

公益社団法人日本化学会 大倉、日置

電話：080-7398-0468、mail：grand-prix@chemistry.or.jp

◆大会概要

- 国際化学オリンピックは1968年に東欧3か国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）にて第1回大会が開催。
- 2024年のサウジアラビア大会は、第56回目。
- 日本は、2003年から参加を開始し、毎年4名の生徒を派遣。本年は22回目の参加。
- 昨年（2023年）のスイス大会は、89か国・地域・他から348名の生徒が参加し、日本は金メダル2名、銀メダル2名受賞。
- 本年（2024年）のサウジアラビア大会は、90か国・地域・他から327名の生徒が参加し、日本は金メダル2名、銀メダル2名受賞。

◆日本代表団（参加生徒）の日程

- 7月21日（日） 選手団日本出発・現地到着
- 7月22日（月） 開会式・各国生徒との交流活動
- 7月23日（火） 各国生徒との交流活動
- 7月24日（水） 実験試験・各国生徒との交流活動
- 7月25日（木） 各国生徒との交流行事
- 7月26日（金） 理論試験・各国選手団の夕食会
- 7月27日（土） 各国生徒との交流活動
- 7月28日（日） 各国生徒との交流活動
- 7月29日（月） 閉会式・送別夕食会
- 7月30日（火） 選手団現地出国・帰国

◆国際化学オリンピックにおける過去3年間の日本代表の成績

- 2021年（第53回 日本大会（オンライン開催））
銀メダル3名、銅メダル1名（参加規模：85か国・地域、312名）
- 2022年（第54回 中国大会（オンライン開催））
金メダル4名（参加規模：84か国・地域・他、326名）
- 2023年（第55回 スイス・チューリッヒ大会）
金メダル2名、銀メダル2名（参加規模：89か国・地域・他、348名）

◆国際化学オリンピック（IChO=International Chemistry Olympiad）

1968年に東欧3か国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会である。参加資格があるのは高校生または高校と同等の学校（ただし高校相当の学年）に在学する20歳未満の生徒となる。

大会は世界の高校生等が一堂に会し、化学の実力を競うと同時に親交を深めることを目的としている。例年は毎年7月に10日間の日程で開催され、生徒らはそれぞれ5時間の実験課題と理論問題に挑戦する。日本は2003年のアテネ大会より参加している。

◆化学グランプリ

化学グランプリは、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として、「夢・化学-21」委員会と日本化学会が1998年、東京と仙台の2か所で試験的に実施したのが始まりである。翌1999年から、「化学グランプリ」(2012年改称)として全国規模で開催されるようになり、今日では申込が3,000人を超える大会に発展している。毎年、本大会の参加者から次の年の「国際化学オリンピック」への代表候補生徒を選抜しており、参加者のうち高校2年生までの成績優秀者20名程度が一次代表候補生徒として推薦されている。

◆参考資料に関するお問合せ先

公益社団法人日本化学会 大倉、日置

電話：080-7398-0468

Mail：grand-prix@chemistry.or.jp

ホームページ：<https://icho.csj.jp/>

「夢・化学-21」委員会事務局（一般社団法人日本化学工業協会広報部内） 羽方

電話：03-3297-2555

ホームページ：<https://www.kagaku21.net/>